

パラグラフ構造を理解して AAAを目指そう！

- 説得力のある文章で、エントリーシートに輝きを与え、就職戦線を勝ち抜こう。

熊本大学大学院

横瀬久芳

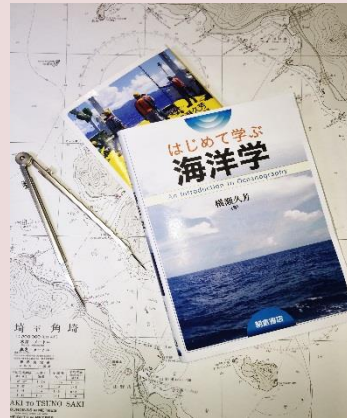
2回目以降から参加の人へ

- 本講義は、まじめな学生を保護するためのルールが沢山設けてある。ルールを守れない学生の単位取得のチャンスはきわめて低い。ただし、まじめな学生ならルールを知らなくても普通に単位が取れるシステムである。
- 受講に際しては、“横瀬” “海洋学” でGoogle検索し、本講義のHPにアクセスし、“本講義の基本スタイル”を参照する。本講義は選択科目だから、無理に受講する必要は無い。

本講義を受講する上で最低 限必要なもの



講義をまじめに聞く態度
(出席が重視される)



教科書：朝倉書店

『はじめて学ぶ海洋学』



Moodle 学習

そして **地球を愛する心** 必要

この講義は選択科目であるから、上記三点を準備できない学生は他の講義を受講して下さい。さらに、上記の要件を準備できたからと言って、単位が自動的に取得できるわけではありません。本講義では、まじめな学生を保護する目的で成績を厳格な方法で割り出しています。当然基準に満たない受講生は不可となります。

小テストの意味は？

- “海洋学”の普及効果をより確実にする。
- 講義中に退屈しないで済むようにする。
 - 就職時の役に立つようにする。

など

勉強することの基本が詰まっている。

ペンは、剣よりも強し

- The pen is mightier than the sword.
リシュリユー枢機卿（1585年-1642年）

ルイ13世の宰相

リシュリユーの信念は「王権の拡大」と「盛大への意思」、すなわちフランスはあらゆる他国を押さええて強大にならねばならないとの確信であり、この信条に従わない者に対しては全てこれを「国家の敵」と見なして徹底的に撲滅を図った。



“The pen” とは、死刑執行の命令書にサインするペンの事らしい。

問2の記述の補足ルール 1

(文章と“語”、“句”、“節”は違う)

- “語”、“句”、“節”は、文章のパーツであって、それだけでは文章の意味が完結しない。
(例) “点”や“こと”などで終わってしまっている場合
 1. 水圧の計算方法が難しかったという点。(がどうした?)
 2. 真球が水圧を分散できること。(がどうした?)
 3. 水圧や光の赤外線、紫外線といった物理分野のところ。
(がどうした?)
 4. しんかい6500のつくり。(わけが分からい?????)
 5. 海流の動き。(がどうした?)

体言止め、本小テストでは推奨していない

問2の記述問題の補足ルール2：

その回の講義内容を具体的に示せない抽象表現や単なる感想といったオールマイティーなフレーズは、出席認定が不可能なので、採点対象から除外します（0点となる）。

<悪い例>

- とくになし。（思い込み型 オールマイティー）
- 難しいところはなかった。（早とちり型 オールマイティー）
- 殻の役割についてもう少ししっかりと学習。（意味不明型）
- 物理っぽい計算がむずかしかった。（抽象および感想型 オールマイティー）
- 小さな文字を読み取れなかった。（感想型 オールマイティー）
- 暑かった（感想型 オールマイティー）
- 気圧の計算式（内容逸脱型 水圧の話はしたが、気圧の話はしていない）

繰り返し質問の禁止

- 既にそれまでの講義で解説済みの基本的事項を抽象的な質問に盛り込んだ場合は、減点対象となることがある。逆に、解説済みの内容であったとしても、具体的な問題点が指摘できていれば、追加点のチャンスがある。
- 文章内容が不適切な場合

これらは、思考停止状態で講義を受けている事をいずれもあらわし、“居ただけ受講生”とみなされる。

“居ただけ受講生”は、お互い時間の無駄だから、他の講義を選択することを強く薦める。

作文力を鍛えることを推奨する

- ・ 問2は、書けば、書くだけ評価が高い。しかし。。。

受講状況の確認のための文章なので、その回の講義内容に即した文章だけが採点対象となる（ちゃんと人の話を聞く）。**講義内容の逸脱は未受講とみなし採点対象からはずす。**

要点をまとめて書こうとするよりも、沢山文章を書くことから始めよう。講義中のノートテイクは、ネタ帳として有効。初心者はその努力を評価します。

文章に自信がある人は、簡潔な文章を心がけて書く。文才があるかどうかは、他人が決める事ですから、自分の文章を客観的に評価できる人以外は、ひたすら書くことを薦めます。

ウイットに富んだ文章で、人を引きつけよう。

論述に際しての基本姿勢

• 読者を想定しよう！

文章作成で一番大事なのは“誰に読ませたいのか？”という事です。

試験問題等における論述は、出題の意図を十分理解して、要求されている内容を的確に表現し、問題作成者に向けて書くメッセージです。この点、メモなどの自分に向けたメッセージや独り言とは大きく異なります。

文章（コミュニケーション）の大きな使命は、相手との意思の疎通を図ることです。

記述の悪い例

一行型の文章（よくあるパターン）

- 台風の進路が高気圧に沿っていることが理解できました。
 - 台風の生い立ちがよくわかりませんでした。
 - 台風のできるしくみがくわしく理解できた。
 - 極圏での大陽光の反射のあたりが難しかった。
 - なるほど一ってなりました。
-
- （ただ書いただけの稚拙な文章あるいはその羅列では、面接官や採点官が、応募者の知的水準を稚拙とみなしかねない。その結果、不要な人材と判断される恐れがある。）

記述の良い例 1

<Aさんの場合：同じ講義を受けていても1>

私は、台風が温度の高い海水をエネルギー源にして、熱帯収束帯の周辺で発生して北上することがわかりました。また、海からエネルギーを得ているため、北上し陸にあがるとそのエネルギー供給が断たれ、勢力を失い、熱帯低気圧に変わるのだとわかりました。さらに、日本で台風が一度西に動き、その後北上して東に動くのは、偏西風と貿易風が日本のまわりで吹いているからだとわかりました。

さらに、私は、地球に季節が存在しているのは、地球の自転軸が公転面に対して傾いているため、太陽があたっている時間に差が出るからだとわかりました。

記述の良い例 2

- ・ <Bさんの場合：同じ講義を受けていても>

台風は、温度の高い海水をエネルギー源にしているため、陸に上がると勢力を弱めるということがわかっているので、台風が発生した時に、海面に一時的に幕みたいなのを張って、水蒸気の供給を断つことができれば、将来的には台風に対する防御ができるのではないかと思った。太陽の光エネルギーは海水に熱エネルギーとして吸収されるため、海が温かくなる。今まで、台風を防ぐことばかり考えていたが、台風は熱エネルギーの循環を促しているということを知って、考えを改めた。

文章力をアップするには

段落（パラグラフ）の構成要素をくっきりさせる。

- トピック・センテンス（Ts）
- サポート・センテンス（S s）
- 論理関係明示子
- コンクルーディング・センテンス（C s）
（締めくくり文）
- パラグラフのベクトル

<仕事の文章は>

起承転結ではなく、“起・承・結”が基本

さて、つぎには実際の例にあたつて、これらの五大要素がどのように現われているかを指摘し、パラグラフの理論のよりいっそうの理解に資するように努めてみたい。まず、つぎの例に目を通していただこう（言及しやすくするため、各文の文頭に番号をふっておく）。

「ほんやくで外国の本をよむ利益は、もちろん、外国の原文でよむよりも、くらべものにならないほど早く、従つて短い間にたくさんの本をよめるといふことである。外国語では、全くよめないことが多いし、よめてもおそい。そればかりでなく、わけのわからぬところも少なくない。従つてたとえば、日本の学者の理想は、いうまでもな

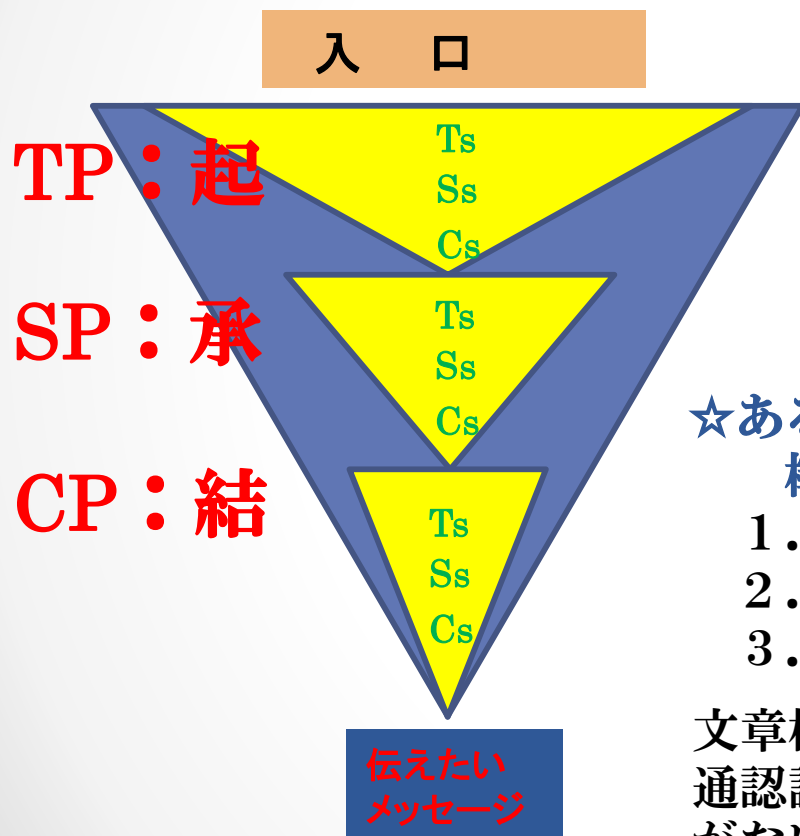
く、すべての外国の文献が日本語に訳されているといふことである。しかしそんなことは事実上不可能だから、学者はほんやくのあるかぎりほんやくを利用し、ほんやくがなくて必要な文献だけをやむをえず外国語でよむのだ。学者にかぎらず、すべての短い時間に沢山の本をよもうとする人々、たとえば一定の期日までにかの報告をしなければならぬ学生にとつて、ほんやくほど有難いものはないだろう。ほんやくは多くあればあるほどよい。といふことは、多すぎて迷惑する人間の少ない以上、いわば自明の結論だろうと思われる。」（加藤周一『雑種文化』講談社文庫、一九七四年、六九頁）

さて、この例においては、文1がトピック・センテンスであることは明白であろう。著者は、「ほんやくの利益」といふことをトピックにしている。文2から文6までは、「ほんやくの利益」についての解説であるから、明らかにサポーター・センテンスである。

文7は、文8によつて「結論だろうと思われる」と述べられていることからわかるように、締めくくり文である。そして、文8は「ほんやくは多くあればあるほどよい。」といふ文7について、これが結論であると解説している文——文についての文としてのメタ（解説）文である——である。文8は、文7がこのパラグラフの結論（締めくくり文）であるという論理的な関係を示しているわけであるから、パラグラフの理論からすると、論理

論述に際しての基本姿勢

- メッセージが伝わるように、論理展開が明確になるように記述する。論述は、逆三角形構造が基本。



☆ 1 パラグラフは、200字前後が目安で、下記の文章群が含まれる。

Ts: トピックセンテンス (起)

Ss: サポートセンテンス (承)
具体例なので複数の文章

Cs: コンクルーディングセンテンス (結)

☆ あるテーマに関して論じる場合は、3 パラグラフ構成が最も一般的である。

1. テーマとなる対象の提示 (起) : TP
2. テーマを具体的に記述する (承) : SP
3. テーマに関するまとめを行う (結) : CP

文章校正は全体として、広い視点 (一般論や共通認識) から焦点を絞り込み結論に選択の余地がないことをイメージさせる。

うまいくくと、メッセージが相手の心に深く突き刺さる！！

文章は場所が決まる

Sentence structure

WHO – WHAT – WHERE – WHEN – HOW – WHY

Who: Subject What: verb (+ Object)

参考：[英語が超ラクになる「日本語との決定的な違い」](#)

Paragraph structure

Topic sentence (Ts) + supporting sentences (Ss) +
concluding sentence (Cs)

<Variation>

Introduction + Ts + Ss1, Ss2, ... + Cs

Ts + Ss1, Ss2,Cs

Ts + Ss1, Ss2,(no Cs) : Process and transition paragraphs

小論文の評価シート（項目）

Writer		
Assignment:		Final mark:
	Comments	Mark
Topic sentence / Main idea		
Paragraph unity		
Paragraph coherence		
Language use		
Strengths of the paragraph		
Weaknesses of the paragraph		

パラグラフの評価シート

Writer		
Assignment:		Final mark:
	Comments	Mark
Introduction / thesis statement		
Main body paragraphs		
Essay unity and coherence		
Conclusion		
Language use		
Strengths of the essay		
Weaknesses of the essay		

小論文の評価シート

D. E. Zemach and L. A. Rumisek (2005) : Academic Writing from paragraph to essay

パラグラフの評価方法

1. トピックセンテンスとサポーティングセンテンス

Topic sentence / main idea:

What is the topic of the paragraph?

What is the main idea?

Does the paragraph have a topic sentence?

Does paragraph have a concluding sentence?

If so, does it restate the topic sentence or sum up the information?

Paragraph unity:

Does each sentence support the topic sentence?

If not, which sentence or sentences do not belong?

パラグラフの評価方法

2. 一貫性

Paragraph coherence in various types of it

Chronology (historical events, personal narratives, processes)

Order by time or order of events / steps

Description

Order by position, size, and shape of things

Classification

Group ideas and explain them in logical order

Comparison / contrast

Organize in point-by-point or block style

Argumentation / persuasion and cause / effect

Order from least important to most important

パラグラフ評価方法

3. 文章の流れ

- **Paragraph cohesive devices**

Transition words :

(e.g. before, likewise, however, for example, etc)

Pronoun reference :

(he, they, it, that, key words)

Repetition of key nouns or ideas :

1パラグラフ＝1テーマ

- 抽象的なテーマ（全体像）を、一つだけ決める。（TS）
- そのテーマに関する具体的な例や詳細を
論理的な順番（時系列、空間的、etc）で解説する。（SS）
- それらをまとめて、著者のメッセージを読者に伝える。
（CS）

この場合、メッセージは、より客観的で、公平な立場からの記述が好まれる。

エントリーシートでは、より客観的に自己分析できている事をアピールすべきで、感情的な表現は具体性がなく、むしろマイナスとなる可能性が高い。